

庁内広報

令和7年9月4日
発行：総務部総務課
7-6号

将来都市像の具現化に向けた改革・実行の年

～笑顔と元気があふれ、誰もが輝くことができる岡谷市を目指して～

9月4日の予算編成方針会議において、令和8年度の予算編成にあたり早出市長から訓示がありました。

■令和8年度は、市民一人ひとりに笑顔と元気があふれ、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべての市民に生きがいと活躍の場があり、誰もが輝くことができる岡谷市をめざして、『子育てしやすい環境の実現』、『安全・安心の伸展』、『未来に向けた産業の充実』、『魅力発信と賑わいの創出』の4点を重点施策として取り組むこととする。

■第5次岡谷市総合計画後期基本計画の3年目として、必要な改革を実行し、住民福祉の増進と行政運営の効率化を図り、本市の将来都市像の具現化に向け、着実に歩みを進めていかななくてはならない。一方で今後の財政運営では、重要施策等の実現に向けた経費のほか、物価の高騰、人件費、公債費などの義務的経費や經常経費において大幅な増加が見込まれることから、令和8年度の予算編成は「経費ごとに削減目標等を定めた上で、全ての経費を一括で見積る」こととする。

■これまでも一定の削減目標を定める困難な予算編成に取り組んでいただき、職員の皆さんには感謝申し上げるところであるが、この予算編成は決して後ろ向きなものではなく、岡谷市の未来への投資、将来にわたって持続可能な行財政基盤を堅持するための大変重要な位置づけと考えている。

■厳しい削減目標ではあるが、職員の皆さんには、この予算編成方針に留意するとともに、私と想いをひとつにさせていただき、令和8年度からさらにその先の岡谷市のまちづくりを見据えた予算編成となるよう全職員一丸となって取り組んでいただきたい。

■事業の廃止・休止などの検討にあたっては、市民生活に影響を及ぼすものもあるため、本市の現状と課題、将来について市民の皆さんと丁寧な対話を行い、十分な説明責任を果たしていただきたい。

■本市の将来のまちづくりに向けて、全ての職員の創意・工夫・努力により市政の改革に挑戦するとともに、常に前向きで笑顔と元気を絶やすことなく、令和8年度予算編成に取り組んでいただきたい。

市長訓示を受け、藤澤副市長から3つの指示がありました。

1. 将来状況と財政推計について

令和8年度以降、市の財政状況は厳しい局面を迎える。生産年齢人口の減少による市税収入の減収が見込まれる一方、扶助費や公債費といった義務的経費に加え、公共施設の大規模修繕や大型事業の進捗に伴う支出が大きく増加し、来年度以降、財源不足が見込まれている。職員全員で危機意識を共有するとともに、すべての事業をゼロベースで見直し、その必要性、有効性、緊急性を徹底的に検証していただきたい。慣例に縛られず、選択と集中、事業の統廃合などを進め、将来にわたる持続可能な財政基盤を築き、健全な財政運営ができる予算編成としていただきたい。

本市の人口減少傾向は避けられない課題である。将来にわたって持続可能な行政運営を続けるためには、人口規模に見合った予算構造への転換が不可欠である。この点については、部課長を先頭に長期的な視点に立ち、現在の事業が将来の行財政運営にどのような影響を与えるかを慎重に検討していただくとともに、限られた財源の中で、真に市民にとって必要なサービスとは何かを再検証し、未来を見据えた予算編成に取り組んでいただきたい。

2. 第5次岡谷市総合計画後期基本計画について

令和8年度は第5次岡谷市総合計画後期基本計画の3年目となる。前期基本計画を継承・発展させることを基本として、本市の将来都市像の具現化に向けて策定した計画である。すべての市民の皆さんに笑顔と元気があふれ、生きがいと活躍の場があり、誰もが輝くことができる岡谷市をめざすため、柔軟かつ斬新な発想により、着実に施策を推進していただきたい。

3. 組織力の高い市役所を目指して

厳しい財政状況・人口減少社会のなか、職員数を増加させることは厳しい状況である。少ない職員数のなかでも「組織力の高い市役所」を築くことが大切。組織力とは単に個々の能力が集まることではなく、部署や世代・垣根を超え、互いを尊重し連携する力のことを指し、個々の能力を最大化することが組織力の強化に繋がる。

組織力の土台となるのは、風通しの良い職場環境であると考ええる。誰もが安心して意見を述べ、新しいアイデアを提案できる雰囲気は、イノベーションを生み出す源泉となる。特に管理職の皆さんには、職員の声に耳を傾け、積極的に対話する姿勢を大切にいただきたい。若手職員の皆さんは、常に斬新な視点や意見を職場内に届け、組織全体の活性化に向けた取り組みを意識してほしい。

個々の能力を最大限に引き出すための「働き方改革」にも取り組んでいただきたい。これは単なる業務の効率化に留まらず、DXを活用した業務の最適化や各種事業のスクラップ＆ビルドについて、再度徹底していただきたい。このほか、良い仕事を行う上で職員の心身の健康は大変重要になるため、適度な休息・休暇取得を促していただくとともに、一時的な繁忙期に対応するための流動的な職員配置についても柔軟に検討いただきたい。